

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2390300263		
法人名	株式会社医療給食		
事業所名	グループホームオアシス大空 さくら		
所在地	愛知県名古屋市中区中切町5丁目28番地		
自己評価作成日	令和4年12月1日	評価結果市町村受理日	令和5年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2390300263-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2390300263-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和5年1月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

母体が医療給食の為、利用者様に合った食事形態で食事を提供することを出来ている。医療体制において、内科以外にも、歯科、皮膚科、眼科まで幅広く対応している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当ホームは、1ユニット7名であることで、職員が利用者一人ひとりに寄り添った支援が行われていることが特徴でもある。日常的な申し送り等の時間を通じて、職員間で情報交換を行いながら、利用者一人ひとりに合わせた支援が行われている。職員間での情報の共有を確実に行うために継続した取り組みとして、2か国語で申し送りノートに記載する工夫が行われており、言語等に課題がある職員にも利用者の支援内容を伝える取り組みが行われている。運営法人については、高齢者の食事の提供を行っている事業所でもあることで、利用者一人ひとり身体状態や健康状態にも合わせた食事形態や医療面に配慮した食事の提供が行われている。日常的には、毎日のおやつ作りの取り組みを継続しており、利用者もできることに参加しながら、利用者の楽しみにつなげる支援が行われている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を掲示し、共有して実践につなげるよう努めている。	「笑顔」と「思いやり」を職員の支援の基本に考えながら、日常の支援を通じて職員への働きかけが行われている。職員にはわかりやすい言葉で伝えることで、全職員に理念として実践する機会につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍により交流ができていない。	感染症問題が続いていることで、地域の方との交流が中断しており、ボランティアの方の訪問も中断している状況である。今後に向けて関連事業所とも連携した地域の方との交流に関する検討等も行われている段階である。	地域の方との交流が中断している状況でもあるため、今後の感染症の状況もみながら、ボランティアの方の受け入れ等、地域の方との交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域とのつながりがほとんどない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍により、施設職員と入居者のみで会議をして、サービス向上に活かしている。	会議については、会議を継続することができるように出席者を限定して行われている。以前は、地域の方や家族の参加の呼びかけが行われていたが、現状は案内を控えている状況でもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村と協力関係を築けるよう努力している。	市担当部署との情報交換等については、関連事業所とも連携しながら行われており、当ホームでも生活保護の方を通じた連携等が行われている。また、地域包括支援センターとも随時の情報交換等が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	問題のある利用者様には、身体拘束以外の対応が出来るよう、その都度対応している。	身体拘束を行わないように、2階のフロアについては出入り口に施錠を行わない等、可能な限り圧迫感を感じないような配慮も行われている。また、言葉による拘束等、職員への注意喚起の取り組み等、職員間での振り返りの取り組みも行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員同士の行動に目を配り、注意を払って防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度について理解している職員は少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時や電話、郵送にて意見や要望を聞いている。運営に反映できるよう努めている。	家族との交流が困難な状況が続いているが、家族との面会等、現状で可能交流が行われている。法人代表者の連絡先を掲示する等、利用者及び家族からの要望等の把握につなげている。共通の便り「大空便り」の他にも利用者毎の手紙も作成している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	常に相談できる環境にあり、管理者は解決に向けて対応している。	毎日の朝礼の時間を通じた意見交換等の機会をつくっており、職員からの意見等を管理者が把握し、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、申し送りを二か国語で行う等、全職員が情報を共有し、意見等を出しやすい環境づくりも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各々のニーズに合った勤務体制になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人外の研修においては、研修案内を掲示し、参加については各自に任せている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者との交流機会は少ない。法人内での交流はある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	日頃から、本人の思いを傾聴し、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご意見や要望が出た際には、その都度、対応しており、ご家族と良好な関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	複数の職種、スタッフが関わることで、取りこぼしのない支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	尊厳を大切にし、一方的とにならない対応を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、ご家族へ現状を書面にてお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍により、冠婚葬祭以外の外出、外泊はできていない。面会や手紙のやり取りは継続している。	現状、外部の方との交流が困難になっているが、利用者の中には電話や手紙等も活用しながら交流する等、現状で可能な支援が行われている。また、身内の方の葬儀等に出かける等、現状で可能な範囲で家族との外出の機会もつくりられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	生活レベルや生活を把握したうえで、できるだけ共有フロアに出てきていただき、創作や家事への参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後も相談があれば、受け付ける体制ができています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望、意向の把握に努めている。	日常的な申し送りの時間を通じて、職員間で利用者に関する意向等の把握と共有が行われている。また、申し送りの時間を通じたカンファレンスも行われており、利用者や家族の意向等を日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前面談や契約時に生活歴や日頃の様子、サービス利用に至るまでの経緯の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ミーティングや申し送りノートを活用し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員から報告を受け、課題を見出し、ケアの在り方について意見を聞いている。	介護計画については、利用者の身体状態等にも合わせて、現状、3か月での見直しが行われている。支援内容を職員間で日常的に共有するように管理者や計画作成担当者からの働きかけも行いながら、定期的なモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録や申し送りノートを活用し、情報共有し、実践している。介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	決まり事や制限は守りつつ、柔軟な支援やサービスが行えるよう、その都度、対応したいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源の把握に努めている。利用可能な資源は活用していきたいと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	看護師が勤務し、施設を協力医との連携を取り、希望に沿った医療を提供している。	協力医による医療面での連携が行われており、現状、全員の方が協力医をかかりつけ医としている。受診については職員による支援も行われており、柔軟な対応につなげている。また、看護師による医療面での支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師が不在であっても、すぐ報告、連絡、相談ができる態勢ができており、必要な対応が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も経過を含め、病院担当者と連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族と訪問医による話し合いを行い、ご家族の意見を尊重したうえで、看取りの支援をしている。	身体状態の重い方もホームでの生活を継続できるように支援が行われており、利用者の中には、ホームで最期を迎えた方もいる。運営法人の関連事業所に特養があることで、特養への移行支援も行われており、家族との話し合い等が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的な訓練は行っていないが、利用者の急変や事故発生時に備え、指導をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を行っている。	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。併設の障害者支援事業所と連携した取り組みも行われている。また、備蓄品については、当ホーム及び運営法人の本部に確保されている。	感染症問題が続いていることで、地域の方との協力関係等の取り組みが困難になっていることもあるため、今後の状況もみながら、地域の方との交流が再開されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	その方に合った対応をしている。	職員には「笑顔」で利用者に接することを伝えることや分かりやすい言葉で職員への指導等を行う取り組みが行われている。また、日常の申し送り等の時間を通じて、利用者への接し方や言葉遣い等の注意喚起も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	なるべく傾聴できる時間や環境を作ったり、困ったことがないか、本人に聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の体調や本人のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月に一度、訪問理美容にて、好きな髪型にカットしてもらったり、定期的にひげそりや爪切りを行い、身だしなみやおしゃれの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	配膳や下膳、食器洗い等、出来る方には声かけをして行っていただいている。	食事は、運営法人から提供が行われており、利用者の様々な身体状態に合わせた食事の提供が行われている。運営法人と連携した特別食の提供も行われている。また、ホームでおやつ作りを行う取り組みが行われており、利用者もできることも参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の食事摂取量と水分量の把握をしている。食事が少ない方には、栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアに加えて、月に一度、訪問歯科医による診察を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄表を用いて、排泄パターンを把握し、失敗を減らすよう工夫し、支援している。	利用者の排泄記録を残し、申し送りノート等にも細かな記録を残すことで、利用者一人ひとりに合わせた支援につなげている。トイレでの排泄を基本に考えながら、排泄に関する医療面での連携も行われており、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	なるべく体操に参加していただいたり、水分を摂っていただく等、便秘の予防に努めている。便秘が続くときは、医療介入している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	日々の体調に合わせて、入浴が安心、安全に気持ち良く、出来るよう支援している。	利用者が週3回の入浴ができるように支援が行われており、入浴を拒む方にも随時の声かけを行いながら、定期的な入浴につなげている。利用者の身体状態にも合わせた入浴の支援や季節等にも合わせた入浴の取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	疲れを感じた時は、部屋で休息していただく等、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤師や看護師と連携をとり、情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	やりたいことや好きなこと、できることを聞き、実現可能なことはやってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の為、外出できていない。	利用者の外出が困難な状況が続いているが、ホームの周辺を散歩を行う時間をつくる等、現状で可能な範囲で外出支援が行われている。例年は、関連事業所とも連携しながら自動車を活用した外出支援の取り組みが行われている。	利用者の外出の機会が限られた範囲となっていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	トラブル防止の為、お金の所持は控えていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自分で管理ができる方は、携帯電話を所持されている。施設内に公衆電話を設置している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングには、季節感のある物を飾り、違和感なく過ごしていただけるよう配慮している。	ホーム内は限られた広さとなっているが、利用者がの定員が1ユニット7名であることで、少人数の静かな生活環境がつけられている。リビングの壁面等に利用者の作品等の掲示を行う等、アットホームな雰囲気が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間に一人になれる場所はないが、気の合った利用者同士が話しやすいよう、フロアでの席の位置に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具の持ち込みが可能であったり、居室内に写真を飾って本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた家具類や好みの物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、居室内にクローゼットの設置が行われていることで、居室内を広く活用することができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室の入り口には表札、トイレ、浴室、非常口等、分かりやすく表示している。		